

自然と実り豊かな

下湯江

しもゆえ



境界一番杭
江戸中期、境争いの跡、境を示す証として石杭を残した



島野江未加 (小6)



芝焼き

年中行事

月	行事	説明
1月	四方拝 (1日)	9時に青年館に集まり、集落の繁栄と各家の安全を祈念し美酒を交し互いに賀詞を交換し新年を祝う。
	寺年頭 (1日)	ご先祖様に感謝し焼香、宝蔵寺・法蔵寺に年頭の挨拶をして接待をいただく。
	お焚き上げ (10日)	古いお札等を琴平様に納め、神官によりお焚き上げをする。
	おこもり	毎月10日に部落の氏が交代制で集まり境内及び拝殿の清掃・月次祭・参拝者の接待を行う。
2月	芝焼き	虫の害を防ぐために1月下旬から2月上旬に3地区に分かれ農家組合で実施する。
4月	溝掃除	4月第1日曜日(初回)に水利組合主体で非農家も参加して実施する。(2回目3回目は水利組合として実施)
5月	早苗ぶり	田植えの慰労と豊作祈願、自治会で日を定めるが最近では機械の進展と耕作形態の変化で簡素となる。
6月	排水・江川草刈り	6月第4日曜日、生活環境保全・防災を目的として集落総出で実施する。
8月	施餓鬼会	飢饉に苦しむ生類や無縁の亡者に施し、その功德を先祖にふり向ける法要。宗派の別なく行われる。
10月	春日神社神事 (10日)	天兒屋根命・譽田別命・巖島姫命を御祭神として神事は琴平神社と共に。宵祭り・収穫の祝いと感謝をこめ神前にて祝詞。神事・神輿の入魂・祭囃子が巡行する。宵祭りは青年部の主催により祭り前夜、祭り太鼓の披露、模擬店・催しもの等子供達で賑わう。
年間	青年館公会堂清掃	青年館は4月～10月の5回にわたり班別輪番制で実施。また、高田公会堂は毎月念仏講が中心で実施している。

第一揚水場

岡田弥樹 (小6)

かんがい用水門
大正12年竣工の用水門
今も現役で大活躍



八幡宮
高田の八幡宮は、高田から下湯江:春日・琴平神社の境内地に移されていたが昭和37年再び高田の地に移した。爾来、氏神と多くの人々に崇敬されている。例祭日は10月15日



下湯江の米どころ



変電所



市道君津駅前線にかかる江川橋



造り酒屋 (原本家)
明治18年創業、鹿野山の伏流水で造る地酒端麗で喉越し爽やかな辛口酒。



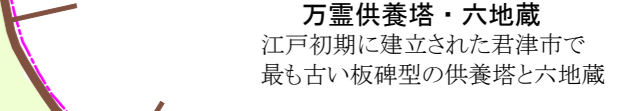
アジサイ



法蔵寺
宗派(縁起)
浄土宗御本尊、阿弥陀如来
慶長年間建立されたもので雄譽靈巖上人の開基。徳川将軍家・旗本赤松氏の位牌がまつられている。向拝は明治17年の建造。



鐘楼
除夜の鐘の音が新しい年を迎えます(平成16年建立)



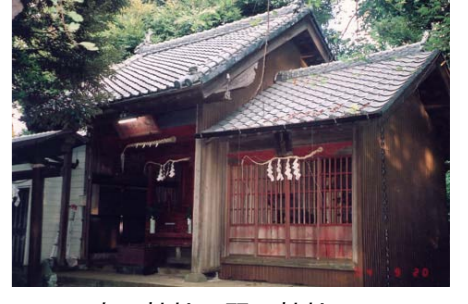
万霊供養塔・六地藏
江戸初期に建立された君津市で最も古い板碑型の供養塔と六地藏



房総往還
江戸から安房を結ぶ江戸時代の道



苗木栽培
明治中期から始められ、松・杉・桧・マキ等の生産が盛んに行われてきた。



春日神社・琴平神社

御祭神(由緒)
御祭神・天兒屋根命・譽田別命・巖島姫命、創建は明治元年(1764)明治初期、近郷との水争いの結果勝訴・氏子一同その恩顧をかしこみ氏神の当社地に神社を造営した。これが末社の琴平神社である。



殿山居宅跡 (高田) 陣屋跡
旗本赤松八兵衛義利によって築かれたという。石高3000石の旗本



御嶽・三笠・八海神社碑
赤松氏の頃といわれているが年月不詳。明治9年に再建され、現在地に移されたのは戦後で高田の有志で維持され崇敬されている



下湯江地区圃場整備記念碑
昭和42年10月湯江工区として着工昭和45年完成。地権者122名。



宝蔵寺
宗派(縁起)
真言宗豊山派・御本尊、不動明王・地藏菩薩高源上人の開基であるがその年月不詳。向拝に竜の彫刻あり。明治32年10月の作。境内に長寿観音像がある。これが末社の琴平神社である。



御影供 創建当初から春の彼岸会の日に境内では農具が開かれて、戦後まで様々のものが並べられて盛大に市が立った。それを御影供(祖先の供養)いって「かめい」と呼ぶようになった。



六地藏



長寿観音像



琴平神社祭り



親子で賑わう宵祭

たばこ栽培
昭和25年、8名で耕作組合を設立。一時は設備を拡大したが次第に減少し、20年間続けられた葉タバコ栽培に終止符が打たれた。